

防災エキスパートの皆さんに期待 ～ 整備局防災課 ～

日頃より中部地方整備局の防災業務に対し、格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

エキスパートの皆さまには、管内各地での洪水対応演習・防災訓練への参加、重要水防箇所の合同巡視、意見交換会を通じて貴重なご意見を頂いているところでございます。

さて、昨年は震度 7 の揺れにより甚大な被害を及ぼした熊本地震はじめ、鳥取県、茨城県などでも震度 6 弱を記録する大きな地震が発生しました。今年に入りまして長野県南部で震度 5 強の地震が発生するなど全国各地で大きな地震が多発しています。

また、近年全国各地でこれまで経験したことのないような豪雨の発生が相次いでいます。特に岩手県や北海道を襲った昨年の台風 10 号や、本年の九州北部豪雨では、急激な河川の氾濫、大量の土砂や流木の流出により広い範囲に甚大な被害が発生させました。

これらの災害に対し、中部地方整備局では発災直後より TEC-FORCE 隊を派遣し、他の整備局等の TEC-FORCE 隊と協力し被災状況調査を中心とした支援活動を実施して参りました。

また、現地では防災エキスパートによる情報収集や応急復旧工法アドバイスなどの技術支援も行われ、早期の復旧活動に貢献されたと聞いています。

災害の激甚化、頻発化が進む中、一方で国土交通省に対する防災減災、地域支援への要望は大きく、職員の減少とも相まって防災エキスパートの皆さんの豊富な経験に対する期待は益々高まっています。

今後も引き続きご協力頂きますようよろしくお願い致します。



総括防災調整官 可児 裕

TEC-FORCE

Technical Emergency
Control FORCE



「平成 29 年九州北部豪雨」の
災害支援 2017.7.12

～緊急災害対策派遣隊～
国土交通省 中部地方整備局

H 2 9 . 7 九州北部豪雨への中部地方整備局のテックフォース

地区代表・世話役会議

5月30日に中部技術事務所にて、地区代表・世話役会議が開催されました。

会議では、整備局から、TEC-FORCEの災害派遣報告、東海・東南海・南海地震対策中部戦略会議や南海地震に備えた広域連携訓練などの紹介がありました。

中部地方防災エキスパートについては、①「エキスパート制度」や活動内容についての再確認と委嘱状況（5/24現在362名）について。

②エキスパートの活動状況や現状における課題と対応。

③防災手帳の更新、「DiMAPS」(注1)、洪水情報のプッシュ型配信の紹介、また災害フォトシステムとK-COSの廃止などについての状況説明がありました。

「中部地方防災エキスパート制度」とは

「中部地方防災エキスパート」とは、

○災害が発生または発生するおそれがある場合において、中部地方整備局長が行う公共土木施設等の被災状況把握、応急対策等に対する防災協力活動をボランティアとして行うことにより、行政機関等による迅速かつ的確な災害対策を推進し、もって被災地域の早期の復旧を図ることを目的としています。

○阪神淡路大震災を契機として、平成8年3月に制度が創設されました。

公共土木施設等の整備、管理等についてのノウハウを持ち、災害発生時等において協力活動を自己の責任により無報酬で行う者であって、中部地方整備局長より委嘱を受けた者をいいます。



平成29年5月現在、362名が登録されています。

図-1 防災エキスパート制度とは

「中部地方防災エキスパート」の活動内容について

「中部地方防災エキスパート」の具体的な協力活動内容は、

自主的に居住地または勤務地周辺の公共土木施設や市街地の状況を目視確認するとともに、各防災エキスパートが担当する事務所に情報連絡を行います。

また、中部地方整備局、事務所長は、災害等に対応するため必要に応じて防災エキスパートに協力活動を要請できるものとされています。その際の協力活動内容は以下のとおりです。

- ①公共土木施設の被災状況のモニター、通報及び災害対策の支援
- ②TEC-FORCE隊員に同行した場合における地理案内、被災状況説明等の支援
- ③リエゾンに同行した場合における連絡業務の支援
- ④管内自治体の要請による災害復旧事業の支援と技術的助言

図-2 防災エキスパートの活動内容

参考) 防災エキスパートの登録状況



エキスパート登録者の所在地



地区代表・世話役会議の様子

(注1) 図-3

「DiMAPS」(総合災害情報システム)

このシステムは、地震や風水害等の自然災害発生時に、現場から収集された情報を、地図上にわかりやすく表示する事が出来るシステムで、インターネットを通じていつでも誰でも見る事が出来ます。

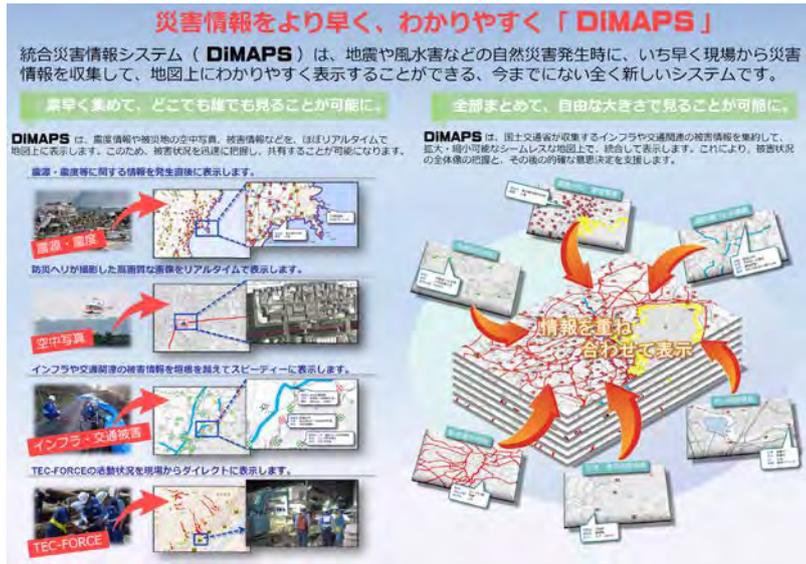


図-3 「DiMAPS」(総合災害情報システム)

防災エキスパートの皆さんから提供された情報は、このシステム等で情報共有され、災害対策の意志決定を支援する事になります。

「緊急速報メール」(プッシュ型配信)

図-5は、「プッシュ型緊急速報メール」で、プッシュ型とは、地震時と同様に各自の携帯に強制的にメールが送られてくるものです。H29.5.1 から安倍川・大井川・豊川・矢作川で配信されており、今後他の河川に随時拡大される予定となっています。



図-4 中部地方整備局ホームページ

「DiMAPS」への入り口
クリック

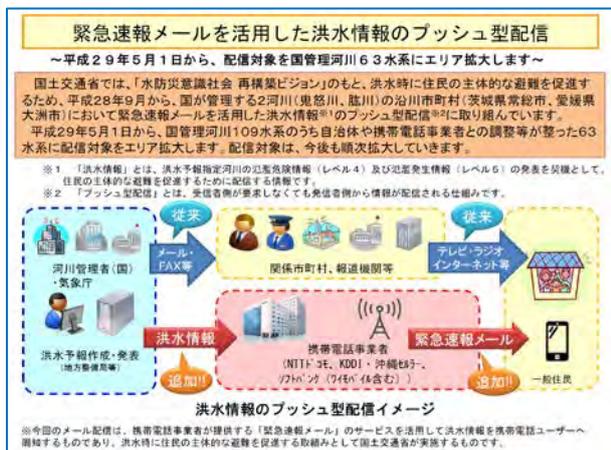


図-5 「緊急速報メール」(プッシュ型配信)

○河川重要水防箇所合同巡視に参加

出水期を前に、各河川における重要水防箇所の合同巡視が行われ、各地区の防災エキスパートが参加しました。

▶ 三重河川国道事務所

※ すべて敬称略

- 5月18日(木) 宮川 2名 長澤 宏和、大野 克典
19日(金) 櫛田川 3名 川本 正和、和田 光広、大野 克典
24日(水) 雲出川 11名 佐藤 久則、辻岡 健一、服部 辰美、
水守 安二、山本 剛、岡田 昌之、笠井 泰宏
北川 公久、積木 優、藤田 孝志、和田 光広
25日(木) 鈴鹿川 7名 真柄 奨、梶川 利満、川本 正和、
岸本 敏夫、水谷 正美、渡瀬 伸、中西 三男



櫛田川右岸 3.0k 付近 (太平橋)



宮川右岸 7.2k 付近 (桜堤)

▶ 沼津河川国道事務所

- 6月 1日(木) 狩野川 3名 長尾 和男、長島 郁夫、佐野 純一
7日(水) 狩野川 2名 茶山 満、工藤 隆

▶ 庄内川河川事務所

- 6月12日(月) 庄内第一 3名 原 一儀、境 道男、野寄 幸道
19日(月) 庄内第二 2名 小河 俊美、溝口 敏明
22日(木) 庄内第一 3名 野寄 幸道、鈴木 正典、境 道男
26日(月) 土岐川 4名 奥田 譲、鈴木 昭二、安藤 元治、
九津見 生哲
30日(金) 春日井 2名 奥田 譲、今津 実

○洪水対応演習・防災訓練に参加

▶ 多治見砂防国道事務所 洪水対応演習

4月25日(火)、直轄砂防管内において、土砂災害が発生した事を想定した「被災情報報告訓練」と「事務所災害対策支部への活動報告」を行いました。

- ・被災状況報告 11名が報告
- ・事務所長への活動報告 3名
(高木 理仁、福沢 昇、水野 豊人)



▶ 沼津河川国道事務所 狩野川連合総合水防演習

5月14日(日)、狩野川河川敷において狩野川連合総合水防演習・広域連携防災訓練が開催され、エキスパートの皆さんは【演習項目】決壊堤防の荒締めきり訓練に参加されました。

- ・訓練参加者 4名(川口 鋭三、茶山 満、佐野 純一、久保田 清)



▶ 木曾川上流河川事務所 南海トラフ防災訓練(環境楽園会場)

9月3日(日)、広い集結スペースを有し、地震に強い高速道路と接続する木曾川三派川地区において、広域支援本部設置訓練がおこなわれました。

防災エキスパートからは以下の皆さんが訓練に参加されました。

- ・訓練参加者 3名(古澤 眞一、林 正順、大塚 康司)



▶ 天竜川ダム統合管理事務所 地震防災訓練

9月14日(木)、小渋ダムにおいて、地震による災害が発生し、登庁職員が不足した事を想定した訓練に防災エキスパートとして参加されました。

- ・ダム二次点検補助 1名(下井田 実)



○各事務所との意見交換会 ～防災エキスパート～

各事務所で意見交換会が開催されました！
 年末までに行われた各地区の意見交換会の様子は以下のとおりです。

実施日	開催事務所	整備局	事務所	エキスパート	備考
7月 4日	浜松河川国道事務所	—	18名	20名	
7月12日	沼津河川国道事務所	—	13名	9名	
8月 3日	静岡河川事務所	2名	15名	19名	
8月30日	長島ダム管理所	—	3名	6名	
9月14日	三重地区5事務所	2名	17名	39名	三重、木曾下、紀勢、北勢、蓮
11月10日	岐阜地区2事務所	3名	26名	16名	木曾上、越美
11月21日	木曾川下流河川事務所	—	17名	13名	
12月20日	三河地区3事務所	—	14名	16名	豊橋、設楽、矢作
月 日	長野地区4事務所		未定		天上、飯田、三峰、天ダム



浜松河川国道
静岡県西部地区会議



沼津河川国道
防災エキスパート連絡会議



静岡河川事務所 意見交換会



長島ダム 意見交換会



木曾川下流 研修会



木曾上・越美砂防
エキスパート・
アドバイザー会議



三重、木曾下、紀勢、北勢、蓮
意見交換会



豊橋、設楽、矢作 三河地区会議

九州防災エキスパート活動の紹介

H29. 7九州北部豪雨における九州防災エキスパート活動

7月5日の九州北部豪雨に伴う九州防災エキスパート会員の出動は、本部、筑後川支部、遠賀川支部が7月6日～7日に延べ37名である。

大分支部は、7月5日山国川河川事務所へ1名自主出動した。

筑後川および遠賀川支部は、7月6日事務所からの要請に基づき出動した。

本部は、7月6日～7日自主出動している。

【出動の概要】

年月日	所属	要請日	活動開始	活動終了	出動人員	
7月5日	大分支部	自主出動	山国川		1	
7月6日	本部	自主立ち上げ	7:00	18:00	7	
	筑後川	7月6日 6:50	8:00	18:15	14	事務所9、日田2、片瀬3
	遠賀川	7月6日 8:15	8:15	13:00	3	田川(出)で立上
	小計				24	
7月7日	本部	自主立ち上げ	8:30	15:00	6	
	筑後川	7月6日 6:50	8:20	14:00	7	事務所5、日田2
	小計				13	
合計					38	

【活動の内容】

本部：整備局との連絡・情報収集、支部との連絡・情報収集

支部：出張所現場支援、事務所での情報収集および緊急並びに応急復旧工法等の技術支援



大分県日田市小野地区



奈良ヶ谷川の溪流

平成29年11月1日から

「南海トラフ地震に 関連する情報」

の発表をはじめました

気象庁では、中央防災会議防災対策実行会議における「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告を受け、新たな防災対応が定められるまでの当面の間、「南海トラフ地震に関連する情報」を発表することとしました。この情報は、平成29年11月1日から運用を開始しました。

情報の種類と発表条件

情報名	情報発表条件
南海トラフ地震に関連する情報(臨時)	○南海トラフ沿いで異常な現象※1が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合 ○観測された現象を調査した結果、南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合 ○南海トラフ沿いの大規模な地震発生の可能性が相対的に高まった状態ではなくなったと評価された場合
南海トラフ地震に関連する情報(定例)	○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」※2の定例会合において評価した調査結果を発表する場合

※1: 南海トラフ沿いでマグニチュード7以上の地震が発生した場合や東海地域に設置されたひずみ計に有意な変化を観測した場合などを想定

※2: 南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価するにあたって、有識者から助言いただくために開催

「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」が発表されたときは、日頃からの地震への備えを再確認してください。

(地震への備えの例)

家具の固定、避難場所・避難経路の確認、家族との安否確認手段の取決め、家庭における備蓄の確認

○本情報の運用開始に伴い、東海地震のみに着目した情報(東海地震に関連する情報)の発表は行いません。

○本情報を発表していなくても、南海トラフ沿いの大規模地震が発生することもあります。

「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」の報告書は、内閣府のホームページからご覧ください。 http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/taio_wg.html

平成29年11月1日から「南海トラフ地震に関連する情報」の発表が始まりました。

これに伴い、今後は「東海地震に関連する情報」の発表は行われません。



～ 防災エキスパート会員登録状況 ～

平成29年12月1日現在 371名

加入・退会、勤務先等変更のある方は、下記事務局までご連絡下さい。

発刊：中部地方防災エキスパート運営支援事務局

(一社) 中部地域づくり協会 企画技術部

名古屋市中区丸の内三丁目5番10号 名古屋丸の内ビル8階

TEL052-962-2227 FAX052-950-1178